



校長室の窓

令和8年6月24日

学校だより第3号より

～この瞬間が、月立小～

6月5日、市内体育祭があり、5・6年生4名が学校代表として出場しました。4名とも、それぞれの競技に精いっぱい臨み、中には、出場した種目で優勝する児童もいました。一人一人が、学校代表として立派に力を発揮してきました。

前日には、4年生が中心となって壮行会を開きました。4年生が応援団長として全体をリードし、下級生全員で5・6年生を応援しました。多目的ホールに響く応援の声から、送り出す側の子供たちの一生懸命さも伝わってきました。

体育祭当日、5・6年生が学校に戻ると、1～4年生が昇降口で出迎えてくれました。6年生が優勝したことを聞くと、「すごい」「おめでとう」と自分のことのように喜ぶ子供たち。ホワイトボードには、「おかえり」「がんばったね」というメッセージがたくさん書かれていました。迎える側も、迎えられる側も、互いにうれしそうな表情を浮かべていました。そのやりとりを見て、ああ、この瞬間が月立小だなと感じました。

6月12日の1～4年生の校外学習では、今度は5・6年生が見送りに来ました。一人一枚ずつ紙を持ち、合図に合わせて掲げると、そこには「楽しんできてね」のメッセージ。バスが学校から見えなくなるまで、5・6年生は手を振って見送りました。1～4年生が帰校した時にも、5・6年生が昇降口で温かく迎えてくれました。メッセージボードには、「おかえり」「楽しかった？」「思い出を聞かせてね」など、温かな言葉が並んでいました。

応援され、送り出された子供たちが、今度は誰かを送り出し、迎える側になる。頑張ってきた仲間を迎え、出かける仲間を見送る。そんな温かなやりとりが、月立小の日常の中にはあります。

月立小のよさは、子供たちが互いの頑張りをよく見て、自分のことのように喜び、応援できることです。こうした月立小らしい温かさを大切にしながら、これからも子供たち一人一人の成長を見守っていきたいと思います。